

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
運動障害と救急法 Clinical management of sports medicine		2年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(「健康運動実践指導者」資格取得希望者は必ず履修すること)	特に制限は設けない
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
特になし				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特になし				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
石川 博人	非常勤講師室	授業中に説明します		授業中に指示します
授業の概要				
スポーツ・介護、その他多様な運動指導の現場において、最低限必要な内科的・外科的医学知識を概説する。 またスポーツ指導者にとって必要不可欠な、怪我の際の応急手当・救急手当・テーピング等の技術習得を目指す。				
授業の目標				
1) 現場で見逃してはならない症状を把握できるようにする。 2) 救急処置の重要性を知り、救急処置法の技術を実際に行うことができるようにする。 3) スポーツによる外傷とそのコンディショニングに対して説明できるようにする。 4) テーピングの意義が説明でき、その実際を行えることができるようにする。				
授業の方法				
講義が中心で、心肺蘇生訓練用人形、テーピングを使った実技授業もある				
学習の成果(学習成果)				
1) スポーツ、介護、運動指導の現場で自信をもって、対応指導することができる 2) 救急処置法を習得することで一刻を争う救急の現場において迅速かつ積極的な行動をとることができる 3) スポーツによっておこる外傷に対して、適切な処置をすることができ、その予防についても指導することができる				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	運動中止の判定をどうするか?～どの時点で判断すべきか～			
第2回目	運動中止の判定をどうするか?～運動を中止すべき自覚症状～			
第3回目	運動中止の判定をどうするか?～運動を中止すべき他覚症状～			
第4回目	内科的な急性障害			
第5回目	内科的な慢性障害			
第6回目	救急蘇生法の基礎			

第7回目	救急蘇生法の実際(実習形式)	
第8回目	救急処置法	
第9回目	スポーツ外傷:捻挫	
第10回目	スポーツ外傷:骨折	
第11回目	スポーツ外傷:脱臼	
第12回目	スポーツ外傷:筋損傷	
第13回目	コンディショニング	
第14回目	テーピングの基礎と試験	
第15回目	テーピングの実際	
成績評価の方法と基準		
	評価の領域	割合
授業参加態度	50%	教材の準備状況(テキスト、ノート)がしっかりできており、集中して聴いていること。演習時には服装等の準備が整い、積極的に参加していること。
レポート		
調査報告書		
小テスト		
試験	50%	100点満点とし、50%に換算して評価する
発表内容(態度含む)		
その他		
教科書と参考図書		
教科書:「健康運動実践指導者養成テキスト」(健康・体力づくり事業財団) 参考図書:「公認スポーツ指導者 養成テキストI・II」(日本体育協会) 「公認スポーツプログラマー養成テキスト」(日本体育協会)		
履修上の留意点・ルール		
真剣に授業に取り組み積極的に質問することを望む。		